

第2回 第2次稲敷市総合計画審議会（H28.3.23） 対応表

No.	テーマ	委員からの発言要旨	対 応
1	施策	稲敷市には有料で興業できるような文化施設がなく、人口流出の要因になっているのではないかと。	賑わい創出の観点から有効と思うが、今後の公共施設のあり方や、複合化・統廃合の検討を行う際に検討していきたい。
2	施策	島根県海士町の人口は上昇傾向だが、教育にも力を入れ、市民も参画している。教育施策に力を入れ、市民も参画できる仕組みを整えることが大切だ。	海士町は人口が増えているが、どこまで定住するのかがポイントだと思う。（会長） 重点プロジェクトの柱の一つに教育・子育てを位置づけ、今後5年間で力をいれて取組んでいきたい。
3	人口推計	推計の数字が上回っているところはあるのか。	消滅すると言われるまちの人口がプラスという程ではないが、プラスになっているところはある。町が奥さんの働き口を斡旋し、子ども達の面倒もみるなど、家族単位での新規転入に力を入れていた。（会長） 具体的に数値が上回ってる自治体は把握していません。
4	施策	教育と高齢者福祉に力を入れていただきたい。	重点プロジェクトの柱に教育・子育てを位置づけるとともに、高齢者福祉についても、安心安全の柱の中で地域による高齢者の見守りのための仕組みの充実などについて記述をしている。
5	施策	スポーツ関連予算も削られていて、この計画と実際にやっていることが逆行している。予算をかけるべきところにはかけるべきだ。	「みんなが住みたい素敵なまち」の実現に向けてやるべきこと、できることを整理しながら、重点プロジェクトなどに位置づけたい。
6	施策	教育と保健福祉を連携させるべきだ。（例. お年寄りが放課後子ども達の指導に当たる・学校と地域の連携（コミュニティスクール）の推進）	学校と地域の連携はとても大切なので、シルバー人材の活用なども含めて今後の検討していきたい。
7	施策	子育て環境を充実させてほしい。学童保育をもう少し利用しやすくしてほしい。	子育てしやすい民間施設が市内にあることは大切と考える。子育て環境の充実に向けて重点プロジェクトに位置づけたい。

8	人口推計	将来人口は個人的には厳し目取るべきと考える。危機感を共有した上で作っていかないと次に繋がっていかないのでは。「まずはみんなでやってみよう」に少し違和感がある。	将来人口について、そういった指摘もあり、厳しめに約35,000人と設定している。市民と一緒にまちづくりに取り組んでいきたいという思い、行政と市民が手を取りあってやっていく意味を基本理念に込めた。この基本理念について再度議論をお願いし検討したい。
9	施策	限られた予算の中、あれもこれもではなく、あれかこれかに絞るべきだ。	重点プロジェクトの中で事業の絞込などを検討していきたいと考えている。
10	施策	稲敷市は農業が主幹産業だが、計画に農業分野の施策がない。メリハリをつけ、危機感を感じながら、思い切った施策が必要だと思う。(例. 学校プールに民間誘致・開発特区)	メリハリのある、稲敷らしい重点プロジェクトが展開できるよう検討を進めていきたい。
11	施策	児童クラブと放課後クラブの違い、保育園と幼稚園の違い、子ども園のメリットなどを理解できるように、分かりやすい説明や資料を作ってほしい。	保護者が理解できる、分かりやすい資料を作れるよう取り組んでいきたい。
12	施策 基本目標	協働、連携が大事。基本目標1番と4番をセットに考えて、光葉団地のように、高齢化が進む中に、若い世代の働く場が確保されると良い。	高齢者と若い世代が連携して施策を推進できるよう取り組んでいきたい。
13	施策	近隣市町村との差別化を図り、稲敷特有の文化を前面に出した実行プランを作り上げていくべきだ。	近隣との差別化を図り、市の特性を生かした実行性のある計画をめざしたい。
14		平成29年には市長選挙がある。市長の公約、マニフェストは、今議論している基本理念にも影響するのか。	計画に書いていないことを選挙公約にはしない。一番極端なのは総合計画の作り直し。もう一つは、実施計画の中で部分修正をする。マニフェストと摺り合わせていく作り方なので、違う人変わった場合には思い切って変えるか、施策的にそれほど違いがなければそのままいく。(会長)